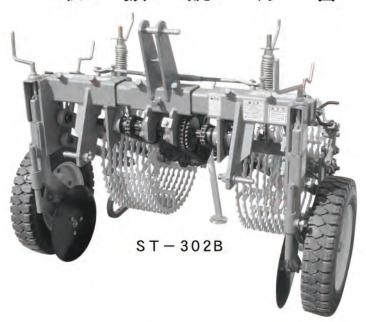
E-1-99/1°-

取 扱 説 明 書





本書は、いつでも使用できるよう大切に保管して下さい。

転売または譲渡する時は新しい所有者の方にこの取扱説明書をお渡し下さい。 説明書が破損したり紛失したりしたときは当社までご連絡下さい。

◆十勝農機株式

河西郡芽室町西 8 条 8 丁目 2 番地 TEL 0155-62-2421

本機を正しく安全にお使い頂くために

はじめに

このたびは「十勝式ビートタッパー」をお買い上げ頂きまして、まことにありが とうございます。

本機は長年の経験をもとに、性能・機構・耐久性・使い良さ等について改良を重ねており、数多くの皆様にご使用頂いております。

本機を正しく安全にお使い頂くため、ご使用の前に必ず「取扱説明書」をよくお 読み頂き、操作装置の位置、付属部品の取付方法及び機能を十分理解されてから、 農作業安全基準に従って作業をして下さい。

●本書をお読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管して下さい。

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ページ
安全上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 ページ
取り扱い上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3ページ
ドライブシャフト取り扱い上のご注意 ・・・・・・・・・・・・ 5ページ
本機の「前・後・左・右」について・・・・・・・・・・・・・・・・ 6ページ
本機 ST-302B の取り扱いについて ・・・・・・・・・・・ 7 ページ
本機 ST-304B の取り扱いについて ・・・・・・・・・・・・・・・ 8 ページ
トラクタへの装着、ドライブシャフト、ラベル・・・・・・・・・ 9ページ
作業前点検整備、工場出荷時の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10ページ
ナイフの取り付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11ページ
ナイフ刃先の位置とコールタ取付向き・深さ・・・・・・・・・・・・・12ページ
タッピング作業を始める、タッピング調整・・・・・・・・・・・・・ 13ページ
タイヤの上下 ・・・・・・ 14ページ
差動の調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15ページ
差動のはたらき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
圃場内でのタッピング調整・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17ページ
タッピング不具合の原因 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18ページ
その他の不具合と原因 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 19ページ
フィーラホイールの調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20ページ
■部 品 明 細
トップリンク・サイドフレーム・動力伝達・・・・・・・・・・・・・ 21ページ
タイヤ・コールタ・スタンド・ドライブシャフト・・・・・・・・23ページ
フィーラホイール・ナイフ取付部・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25ページ

安全上のご注意

A 警告

- ◎ 本書をよく読み各ページの警告や注意の指示を必ず守る
- ◎ 作業に適した安全な服装をする ヘルメットやすべらない靴及び作業用手袋を着用し、だぶつきのない服装で作業をして下さい。
- ◎ 本機に絶対乗らない 事故防止のため本機には絶対乗らないで下さい。
- ◎ 公道での走行はしない トラクタに作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。 トラクタに本機を装着して公道を走行しないで下さい。
- ◎ 本機に貼付けてあるラベルがはがれたり、見づらくなっている場合は 取扱説明書で貼付け箇所を確認し同じラベルを購入のうえ必ず貼る ラベルは販売店または当社にご注文下さい。
- ◎ 本機を貸す場合

本機を貸すときは取扱説明書も一緒に渡し、必ず読んでから使用するよう伝えて下さい。それを怠ると所有者に責任が及ぶ可能性があります。 取扱説明書が破損したり紛失したときは当社にご注文下さい。

■作業時

◎ 次のような運転はしない

飲酒運転、いねむり運転、わき見運転、病気の時、薬を服用している時、若年者、妊娠中の女性など。これらの状態で運転をしないで下さい。 運転するときは必要な免許証を携帯し、健康な状態でして下さい。

- ◎ 部品交換や点検・調整・整備・清掃・注油等をするときは
 - ◆ 必ずトラクタのエンジンを止める。
 - ◆ PTOの回転を止める。
 - ◆ 本機の間や下に入らない。
 - ◆ 平坦で地盤のしっかりした場所でおこなう。

エンジンを止めずPTOを回転させたまま回転部に近づいたり、触れたり、トラクタと本機の間や下に入ったりしないで下さい。また傾斜した場所などでおこなわないで下さい。死傷するおそれがあります。

◎ 作業するときはまわりの安全を確認する

事故防止のため、トラクタと本機の間、本機の下などに人や障害物がないこと。 また、トラクタ運転者以外の人が本機から3メートル以上離れていることを確 認して下さい。

安全上のご注意

A 警告

- ◎ コールタ、ナイフ、フィーラホイールに素手でさわらない ケガをするおそれがあります。またコールタを上下するときは、足をコールタ の下に入れないで下さい。コールタが落下してケガをするおそれがあります。
- ◎ 圃場への出入り、土手まわり、路肩、畦ぎわ、軟弱地での運転 圃場への出入り、土手まわり、路肩、畦ぎわ、軟弱地等での運転は事故の危険 性が高く、また作業性も悪いので、運転および作業は充分注意して下さい。
- ◎ 傾斜地で作業するときは
 - ◆ 急旋回をしない。
 - ◆ 傾斜地に止めるときはトラクタのタイヤに車止めをする。
- ◎ 移動するときは
 - ◆ P T O の回転を止める。
 - ◆ 作業機を必ず上げる。

公道以外で本機をトラクタに装着して移動する時は、事故防止のためまわりの安全に注意し低速で走行して下さい。

◎ 旋回するときはまわりの安全を確認する 旋回するときは本機に人や物が接触しないようにして下さい。

取り扱い上のご注意

▲ 注 意

本機の破損や故障及び事故防止のため次のことに注意して下さい。

◎ 点検整備は必ずおこなう 作業前、作業後に必ず点検・整備をして下さい。作業中も、ときどき実施して下さい。

なお整備を要する場合は、本書の関連ページをよく読んでから行って下さい。

- 本機 ST-302B は28kW (38PS) 以上のトラクタに装着する 本機 ST-302B は28kW (38PS) 以上のトラクタに装着して使用して下さい。 本機は指定した適用トラクタ以外には装着しないで下さい。
- ◎ 作業するときはスタンドを上げピンで止める 作業するときは本機のスタンドを約40センチ上げてピンで止めるか、あるいは スタンド自体を抜き取って下さい。

取り扱い上のご注意

▲ 注 意

◎ 指定のPTO回転数で作業する

低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し事故や故障の原因になることがあります。

本機に貼ってある表のPTO段数で作業して下さい。

◎ トラクタ変速位置とエンジン回転数

本機に貼ってある表により変速位置とエンジン回転数を合わせる。表に表示されていないトラクタを使う場合は当社へご連絡下さい。

◎ ときどきタッピング状態を見て確認する

圃場や生育の状態によりタッピング状態が変化します。このため再調整が必要な場合もあります。

- ◎ タッパーと畦のセンターずれに注意するセンターずれがあると枯れ葉がナイフにたまり、タッピング不良を起こします。
- ◎ 傾斜地等でずれが大きくなるとコールタでビートを切るおそれがある
- ◎ 旋回や後退するときはPTO回転を止め、必ず作業機を上げる 作業機を上げないと作業機を破損するおそれがあります。
- ◎ 別の目的で使用しない

本機はビートハーベスタで掘取りする前の、ビートの茎葉をタッピングする作業にご使用下さい。別の使用目的での作業はしないで下さい。

◎ 改造はしない

本機の改造、指定以外のアタッチメントの取付などは決してしないで下さい。 また、部品は部品明細書に記載した規格で当社純正部品を使用して下さい。 規格が異なる部品や中古部品及び他社の部品は使用しないで下さい。 事故やケガ、本機の破損や故障をまねくおそれがあります。

◎ 本機に衝撃を与えない

本機の故障や破損防止のため移動走行は低速で、本機の上下はゆっくり行って下さい。

◎ 格納時はスタンドを下げる

本機を格納するときは作業の時に上げたスタンドを必ず下げピンで止めて下さい。また、作業の時に抜き取った場合は必ず本機純正のものを取り付けて下さい。

◎ 格納は平坦で硬い場所に置く

本機が倒れたり動いたりしないような平坦な地盤のしっかりした場所に格納して下さい。

取り扱い上のご注意

▲ 注 意

◎ 保管整備

- ●水洗いや摩耗部に油を塗るときは、コールタ、タッパーナイフ、フィーラホイールに素手で触らないで下さい。ケガをするおそれがあります。
- ●水洗いや泥落としの時に、足でコールタ、フィーラホイールを蹴らないで下さい。ケガをするおそれがあります。
- ●摩耗している部分は早めに交換して下さい。
 整備は特に摩耗部が減っていないか確認し、摩耗していれば早めに交換して下さい。
- ●長期保管の場合は泥などを落として摩耗部に錆止め油を塗って下さい。

■ドライブシャフト

◎ ドライブシャフトの連結確認

ドライブシャフトのクラッチ側がトラクタのPTOについていることを確認して下さい。

ジョイントのノックピンがトラクタのPTO軸みぞと本機ベベルボックスの入力軸みぞに確実にはまったことを確認して下さい。

◎ 本機付属品のドライブシャフト以外のものは使用しない

本機 ST-302Bで使用するドライブシャフトの型式: AS050-450-26T 本機 ST-304Bで使用するドライブシャフトの型式: AS050-450-35T ドライブシャフトに添付されている取扱説明書を必ずお読み下さい。

◎ ドライブシャフトの長さ

トラクタによりPTOのドライブシャフトの取付距離が異なります。 ドライブシャフトの長さ調節のため切断するときは、トラクタと作業機の取付 時に**内と外のチューブの重なりが80ミリ以上になるよう**に切断する。なお、切 断の手順については、ドライブシャフトに添付されている取扱説明書に従って 下さい。

◎ ドライブシャフトの保管場所

本機のものとわかるように保管して下さい。別の作業機のものを使用すると故障や事故のおそれがあります。

- ◎ PTOとグランドPTOの相違
 - ●PTO回転数はエンジン回転数に比例する。
 - ●グランドPTOはトラクタ車速に比例する。 グランドPTOの場合の走行速度は4~6km/hで行って下さい。
 - P T O とグランド P T O は入・切のレバー操作が違う。(トラクタの取扱説明書に従って操作して下さい。)

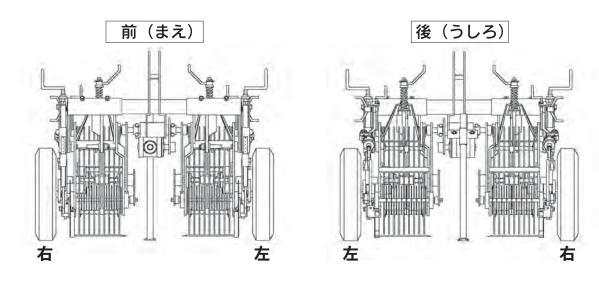
▲注意

- ◎PTO仕様のビートタッパーはグランドPTOで使用しないで下さい。
- ◎グランドPTO仕様のビートタッパーはPTOで使用しないで下さい。
- ◎トラクタを変えるときはビートタッパー本体のギヤの変更が必要です。

● 本機の「前・後・左・右」について

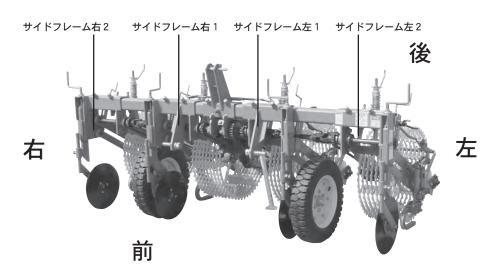
本機ST-302B の場合

本機前方正面を「前」とし、後部を「うしろ」とする。 本機の<u>進行方向(本機うしろから見て)右側を「右」とし、</u> <u>左側を「左」とする。</u>取扱説明書における前・後・左・右の記述もこれに従う。



本機ST-304B の場合

本機トラクタ側を「前」とし、クリーナ側を「後」とします。 本機をうしろから見て右側を「右」、 左側を「左」とします。 取扱説明書における記述もこれに準じます。



● 本機ST-302Bの取り扱いについて

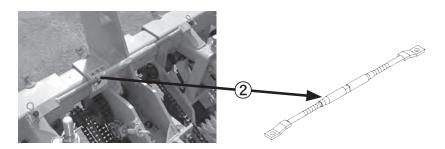
本機ST-302Bの畦巾

トラクタへの装着前に本機の畦巾が圃場の畦巾 と合っているか確認して下さい。なお、畦巾を 変更するときは次のようにして下さい。

- ◎畦巾の変更作業は片側を調整し終えてからもう一方の側をします。両側同時にゆるめると作業しづらくなります。
- サイドフレーム左の上面固定ボルト①を2カ所ゆるめる。
- **2** 畦巾調整ロット②を回してサイドフレーム左1をスライドさせツールバーの畦巾のポンチ印に合わせる。(60cmか66cmの印のどちらかに設定する。)

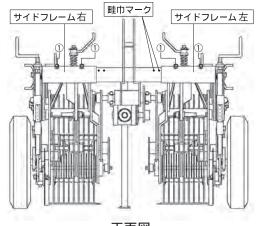
注意:固定ボルト①は調整するフレーム以外はゆるめない。調整の順番が来た時だけゆるめる。

- 3 フィーラホイールを持ち上げ、トップリンクマストの角パイプとサイドフレームの角パイプがねじれていない状態でサイドフレーム左の固定ボルト①2本をしめサイドフレーム左がしっかり固定したことを確認する。
- 次にサイドフレーム右も同じ要領で畦巾の位置に スライドさせ調整する。



▲注 意

サイドフレームを2.2尺のマークより広げすぎるとサイドフレームが落下してケガをするおそれがあります。広げすぎないよう充分注意して下さい。



正面図

本機ST-304Bの取り扱いについて

畦巾確認と畦巾変更のしかた

トラクタへの装着前に本機の畦巾が圃場と合っているか確認して下さい。

◎畦巾を変更するときの注意。

本機の畦巾を変更するときは**一畦ずつ調整**します。 **同時にすべて**の関連個所を**ゆるめないで下さい**。

サイドフレーム左1の固定ボルト①を2本ゆるめる。(6 頁写真を参照)

注意:固定ボルト①は調整するフレーム以外はゆるめない。調整の順番が来た時だけゆるめる。

2 畦巾調整ロット②を回してサイドフレーム左1をスライドさせツールバーの畦巾のポンチ印に合わせる。(60cmか66cmの印のどちらかに設定する。)

合わせたら固定ボルト①を締める。

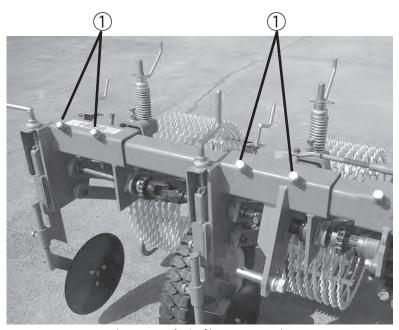
- **3** 次にサイドフレーム右1を**12**の要領で行う。
- サイドフレーム左2の畦巾を設定する。 畦巾調整ロット②を左1と左2の突起 部③に架け替える。サイドフレーム左2の固 定ボルト①をゆるめる。(2本)

畦巾調整ロット②を回してサイドフレーム左2をスライドさせツールバーの畦巾のポンチ

注意

3~5頁の安全上のご注意、 取り扱い上のご注意をよく お読みのうえ作業をして下 さい。

(6頁の写真も一緒に) 参照して下さい。

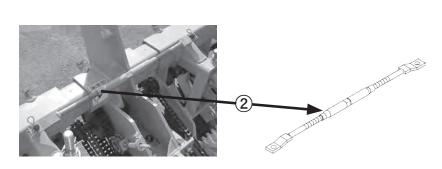


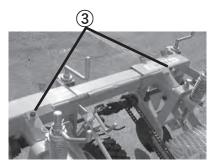
(6頁写真も参照のこと)

印に合わせる。(60cmか66cmの印のどちらかに設定する。)

合わせたら固定ボルト①を締める。

サイドフレーム右2の畦巾を設定する。 畦巾調整ロット②を右1と右2の突起 部③に架け替えてから4の要領で右2をスライドさせて行う。





● ST-302B・ST-304Bの共通事項 ●

トラクタへの装着

① **左ロワーリンク、右ロワーリンク、トップリンクの** 順で作業機を取付け、**水平、垂直になるよう調整**し、最後に作業機の中心を合わせ、取付各部の止めピン が**確実に装着されているか確認**する。

注意

3~5頁の安全上のご注意、 取り扱い上のご注意をよく お読みのうえ作業をして下 さい。

- ② トップリンクの伸縮はタッピング面が平らになるようにする。 (下ろした状態でナイフを機体横から見て水平にする)
- ③ 本機のスタンドを外すか又は上にあげてピンで止める。
- ④ ビートの大小や圃場の状態により本書11ページ以降の各調整をする。

ドライブシャフトの連結

本書5ページをよくお読みの上、取り付けて下さい。

ラベルについて (ラベルの注文はコード番号を指定して下さい。)

▲注意

●使用前に取扱説明書をよく読んで 正しく安全な作業をして下さい。 ●エンジン始動時に本機のまわりに 人や障害物がないことを確認する。 ●こきどきタッピング状態を見る。 ●部品交換・点検整備・調整・注油 消標をするときは必ずトラクタの エジジンとPTOの回転を止める。 ●旋回・後週時は作業機を上げる。

> コードNo. CTR - 001

▲ 注 意

怪我をするおそれが あります。コールタ やナイフに素手で触 らないで下さい。

> コードNo. HM-140



コードNo. HP-123

▲注意

サイドフレームを 2.2尺のマークよ り広げすぎるとサ イドフレームか落 下するおそれがあ ります。広げすぎ ないよう充分注意 して下さい。 19-01

コード№. TR - 011



コードNo. STGP-002



コードNo. TR-038

タイヤの上下

タイヤフレームのボルトを ゆるめてハンドルを回し上 下させます。 ●タイヤを上げると、 より厚く切る。 ●タイヤを下げると、 より薄く切る。 なお、差動装置が、「差 動なし」の位置のときは ならうになりません。 ●タイヤの空気圧 3.5 k TR-039

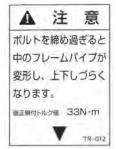
> コード№. TR-039

1ミソ回す とナイフの すきまが 0.5mm 上下します

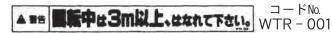
コードNo. FA

ご使用下さい。 ずい時、注油して

コードNo. ステッカーC



コードNo. TR - 012



作業前の点検整備

作業の前に必ず以下の点検整備をして下さい。 なお調整を要する場合は、本書の関連ページをよく読んでからおこなって下さい。

- ●本機の畦巾の確認をする。
- ●本機は基本的にトラクタに水平・垂直に なるように装着する。
- ●ナイフ、コールタの刃の摩耗度を点検し、 よく切れる状態にして作業をする。
- ●ナイフとフィーラホイールのすきまが適 正か確認する。(P.11)
- ●コールタの上下位置と向きの調整。(P.12)
- ●タイヤの上下位置の調整をする。(P.13)
- ●回転部の注油をする。
- ●ボルト、ナット類のゆるみがないか点検し 増し締めする。
- ●チェンのたるみを点検し張っておく。
- ●その他各部の異常がないか必ず点検する。

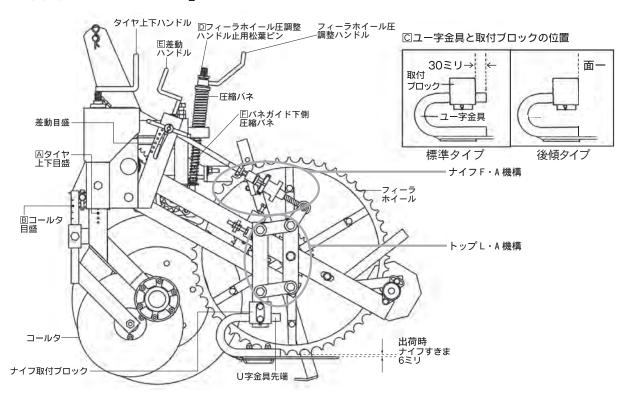
[工場出荷時の設定]

工場出荷時の本機各部の初期設定については下記のようになっています。 使用時は圃場状態に合わせて再調整して下さい。

表 1

	出荷時設定	圃場での再調整
	目盛り 下から 4番目	13~14頁参照
□コールタの深さ	目盛り 上から 5番目	12頁参照
□ U字金具と取付ブロックの位置	下 図 参 照	下図と同じにする
□ フィーラホイール圧調整ハンドル	止 穴 上から 2番目	21頁参照
E 差 動 位 置	お客様の指定があれば15頁表3により設定	15~16頁参照
F バネガイド下側圧縮バネ	止 穴 下から 1番目	25頁参照

[各部名称と調整箇所]



ナイフの取付け

本機を必ず**トラクタで持ち上げた状態**で行って下さい。付属の部品箱に入っているタッパーナイフをペアボルトで「U字金具」に取付けて下さい。

▲注 意

ナイフ取付の時はトラク タのエンジンとPTOを 必ず止めて下さい。

「ナイフF·A機構(ナイフとフィーラホイールのすきま調整)]

ナイフとフィーラホイールのすきまが 3 ミリ~10 ミリになるようにナイフF・A機構で調整します。ナイフF・A機構は 6 つの切れ込みがあります。 1/6 回して 0.5 ミリ、 1 周回すと 3 ミリのすきまの調整ができます。

● ストッパーピンを抜きナイフF・A機構を回してナイフの上下を調整する。

後ろから見て右に回す — すきまが狭くなる 後ろから見て左に回す — すきまが広くなる

- 2 すきま調整後ストッパーピンを差し込む。
- **3** 右側・左側それぞれ調整して下さい。
- ◆ ナイフ取付調整後、フィーラホイールを手で回してみます。 回したときにタッパーナイフと接触しないか確認して下さい。 フィーラホイールを回した時に一部分でもナイフと接触した場合は、再調整して下さい。 ただし、すきまを広げすぎないよう注意して下さい。

注 意

作業機を下げフィーラホイールが上がった状態ですきまを 調整すると、差動がきき作業機を持ち上げた時にナイフと フィーラホイールが干渉することがあります。必ずフィー ラホイールが下限にある状態で調整して下さい。



◎ナイフF・A機構 (ナイフ・ファイン・アジャスト機構)

「ナイフのゼロ点調整]

万一、ナイフの位置が分からなくなってしまった場合は下記 の要領でゼロ点調整を行うことをお勧めします。

◎手 順

- ナイフF・A機構を作業機の後ろからみて左に回しナイフのすきまを広くする。
- 作業機を調整しやすい高さまで持ち上げる。
 - *注意 このときフィーラホイールやナイフが地面にふれていないことを確認して下さい。
- すきまが少なくなってきたら、ナイフF・A機構を1/6回すごとに、フィーラホイールを手で1回転させてナイフがフィーラホイールリングに接触しないか確認して下さい。
- **6** フィーラホイールにナイフが接触した位置がゼロ点となります。
- ⑦ 次に必要なナイフのすきまになるようにナイフF・A機構を作業機の後ろからみて左に回し目標のすきまに調整します。

- ❸ 1回転で3ミリ、1ミゾ(1/6回転)で0.5ミリずつ調整できます。工場出荷時の6ミリに調整するには、作業機の後ろからみてナイフF・A機構を左に2回転回すことで設定できます。
- すイフF・A機構の回転が重い場合は、ナイフF・A機構を逆に回しフィーラホイールとナイフが干渉している恐れがありますので、無理に回さず確認して下さい。
 - *同じ要領で右側、左側それぞれ確認・調整を行って下さい。

[すきま調整が不具合な場合の現象]

- ◎ナイフとフィーラホイールのすきまが広すぎる場合
 - ビートトップを厚く切りすぎる。

に調整を行って下さい。

2 茎葉の押さえが弱く、十分切らないままビートを倒す。

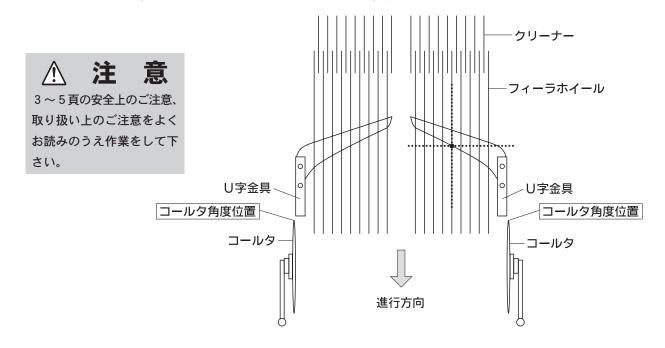
◎ナイフとフィーラホイールが接触している場合

- ナイフとフィーラホイールの接点で<u>茎葉や泥・石などが詰まり、本機やトラクタを破損</u>することがある。
- 2 フィーラホイールとの接触面でナイフが摩耗し折れることがある。
- ③ フィーラホイールの歯型部が摩耗し<u>茎葉の押さえが弱くなりタッピング状態が悪くなったりビートを倒す</u>ことがある。

ナイフ刃先の位置とコールタ取付向き・深さ

摩耗と研磨のくり返しにより、ナイフ刃先は徐々に後退していきます。 機体の真上から見て、フィーラホイールの中心とナイフの刃先が一致するよう

コールタの角度は図のように「U字金具」の外側に合わせる。コールタの深さはコールタが空転しない($2 \sim 5$ センチ)程度にいれる。



タッピング作業を始める

- ◎ 作業開始点に本機を合わせる。
- ◎ 本機タイヤを上下し畦の深さに合わせる。
- ◎ トラクタの変速位置とエンジン回転数を合わせる。
- ◎ まわりの安全を確認してからPTOまたはグランドPTOを入れ走行します。
- ◎ 試し走行をしてタッピング状態を見る。切れ具合により調整する。本作業時もときどき確認して下さい。

▲ 警告

- ◎ 作業時はまわりに人がいないか確認して下さい。特に子供・お年寄りには十分注意して下さい。
- ◎ 回転部分など動くところには触れないで下さい。

タッピングの調整方法

圃場の畦間の深さ、ビートの地上露出高さに応じたビートトップの最適なタッピングを行うための主な調整順序。

第一段階 タイヤの上下

第二段階 ナイフF・A機構によるタッパーナイフのすきま(P.15)

第三段階 トップL・A機構による差動調整 (P.15)

同一圃場の畦間であっても生育状況でビートトップから畦間の底までの高さは常に変わります。その原因として土質の硬軟、土壌水分の多少、管理作業の踏圧、防除時の沈下等があります。タッピング調整はこれらの影響がなるべく少ない場所でして下さい。

◎第一段階(タイヤ上下ハンドルによる調整)

タッピング状態が悪いときはまず第一にタイヤの上下調整をして下さい。 タイヤの上下調整で畦間の深さに合わせると良くなることがあります。

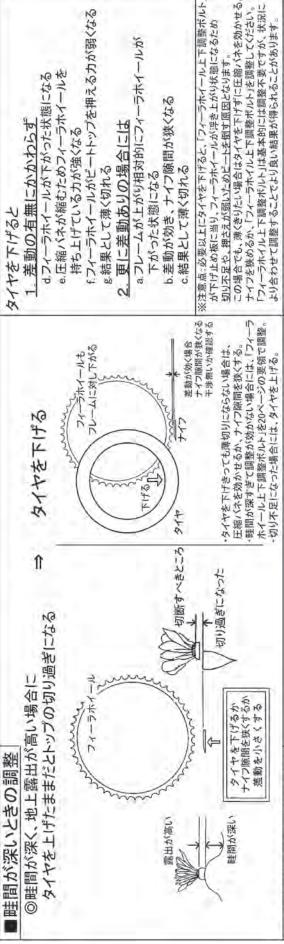
[タイヤ上下調整のはたらき]

- ◆ タイヤを上げる ビートをより厚く切る。
- ◆ **タイヤを下げる** 一 **ビートをより薄く切る。** ※ただし差動装置が「差動なし」の位置のときは、このようになりません。

「上下調整のポイント]

- 試走行し地上露出の少ない低いビートも切れるように調整する。
- ② 走行中低いビートの上を通ったときに、フィーラホイール上下調整ボルトとフィーラホイール下げ止板の間のすきまが、2~3ミリあることを確認する。このすきまが無いと、より低いビートを切ることが出来ない。(P.20の図参照)

タイヤ上下の説明



タイヤを上げると

「フィーラホイール上下調整ボルト

アフィーリホイールがパートトップを強く挿える e.圧縮バネが伸びるためフィーラホイールを dフィーラホイールが上がった状態になる 差動の有無にかかわらず 持ち上げている力が弱くなる

aフレームが下がり相対的にフィ 更に差動ありの場合には g:結果として厚く切れる

フレームに対し上がる

ールホイールも

タイヤを上げる

1

タイヤを下げたままだとトップの切り不足になる

フィーラホイール

◎畦間が浅く、地上露出が低い場合に

畦間が浅いときの調整

b. 差動が効く場合、ナイフ隙間が広がる c. 結果として厚く切れる 上がった状態になる

LIFE,

切り不足になった

//露出が低し

砂瀬 すべぎといる

ナイフ降間を広げるか発動を大きくする

タイヤを上げるか

時間が送(

ナイフ随間が、広くなる

隙間を確認する 差動が効く場合

「フィーラホイール上下調整ポルト」は基本的には調整不要ですが、状況 により合わせて調整することでより良い結果が得られることがあります。 この状態から、薄く切る調整を行う場合にはナイフ隙間を狭めずに、 ナイフ隊間を狭く調整すると、作業機を持ち上げた際にナイフが ※注意点:タイヤを上げた状態で、作業機を地面に置いたまま フィーラホイールに干渉することがあります まずタイヤを下げて調整してください

この場合は、圧縮バネの調整や11ページのナイフ隙間調整と合わせて調整するか、あえて差 動を拡大してください。 また、「差動無し」の場合、「標準差動」「拡大差動」に比べ、タイヤ上下による切断厚を調整の効果は薄くなります。 ●「フィーラホイール上下調整ボルト」の調整は20ページの内容をよく読み理解してから行ってください。 タイヤ上下による調整は差動の有無や、差動の大きさにより効果が変わります。

当たり厚切り出来ない場合は20ページの要領で調整。

切り過ぎになった場合はタイヤを下げる。

圧縮パネを効かせないか、ナイフ隙間を広げる。 ・「フィーラホイール上下調整ポルト」が下げ止め板に

タイヤを上げきっても厚切りにならない場合は

14

○第二段階(ナイフのすきま)

ナイフのF・A機構によりにナイフ上下が簡単にできます。ナイフとフィーラホイールのすきまが $3 \sim 10$ ミリの範囲で切断状況に合わせて調整します。調整のしかたは11ページに記載してあります。次の表及び $14 \sim 16$ ページの解説も参考にして下さい。

圃場状態に対するタイヤの上下またはナイフ上下の対応のしかた

表 2

	タイヤ_	上下調整	ナイフす	きま調整
畦間深い	下げる			
畦間が柔くタイヤが沈む	下げる			
畦間浅い		上げる		
ビートの地上露出が高い	下げる			
ビートの地上露出が低い		上げる		
より厚く切る		上げる		大きく
より薄く切る	下げる		小さく	
ビートトップの切りすぎ	下げる		小さく	
ビートトップの切り不足		上げる		大きく

タイヤまたはナイフの調整で十分でないときは差動調整をして下さい。

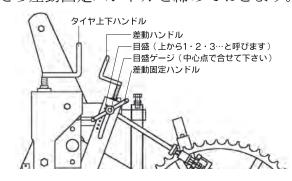
◎第三段階(差動の調整)

トップL・A機構により差動が無段階調整できるようになりました。

差動調整は、ビートの大小または地上露出高さに応じ小さいビートの切断厚は薄く、大きいビートは厚くタッピングする切断厚さ任意自動差動機構により調整できます。本機ではトップL・A機構により差動なしから拡大差動まで無段階で調整でき様々な圃場状況にも対応した最良のタッピングが可能になりました。

[トップ L・A 機構による差動調整]

- 差動固定ハンドルをゆるめる。
- ② 差動ハンドルを回し上下させ任意のタッピング状態になる目盛りに合わせる。
- **3** 目盛りは上から順に1、2、3…と呼びます。
- **4** 目盛りを合わせたら差動固定ハンドルを締めておきます。



ナイフのすきまと差動目盛り位置によるタッピング状態

表 3		差	動目	盛
	ナイフすきま	1	2.5	5以上
	ノイフりさよ	差動なし	標準差動	拡 大 差 動
ルナハビ L	3~5ミリ	薄く切れる	薄く切れる	薄く切れる
小さいビート	5~10ミリ	薄く切れる	やや厚く切れる	厚く切れる
大きいビート	3~5ミリ	薄く切れる	やや厚く切れる	厚く切れる
人をいて一ト	5~10ミリ	薄く切れる	厚く切れる	更に厚く切れる

圃場状態によって表と異なる場合もあります

差動のはたらき

差動とは、ビートの大小又は地上露出高さに応じ小さいビートの切断厚は薄く、大きいビートは厚くタッピングする切断厚さ任意自動差動装置です。

(ビートの生育状況で下表の差動調整ができます)

			ケース 1	ケース 2	ケース3
ビ-	- トトップの訓	兑明	ビートの地上露出高さ の不揃いが少ない場合	ビートの地上露出高さ が不揃いの場合	ビートにトウ立ち(抽 苔)等により地上露出 高さが特に不揃いの場 合
ビー	- トトップの状態	集図	地表	地表	地表
差	動	量	小さくてよい	標準準	大きい方がよい
差	動の目	安	差動なし (差動目盛1)	標準差動 (差動目盛2.5)	拡大差動 (差動目盛5)
機		能	差動なし	切断厚さ任意自動差動	切断厚さ任意自動差動
作		用	フィーラホイールが上 下してもフィーラホイ ールとナイフのすきま は変わらない	ビートの地上露出高さ に応じてフィーラホイ ールが上下し、その上 下によってフィーラホ イールとナイフのすき まが変わる	ビートの地上露出高さ に応じフィーラホイー ルが上下し、その上下 によってフィーラホイ ールとナイフのすきま が大きく変わる
作	用	図	フィーラホイール 上がる トナイフ すきまが変わらない	フィーラホイール 上がる トがる トがる すきまが 大きくなる	フィーラホイール 上がる 下がる すきま標準より 小さい 大きい
タ	ッピング	図	地表 (差が大きい	地表 地上露出の 多いビート 少ないビート	地表 特に地上露出 地上露出の の多いビート 少ないビート
状		態	やや不良	良 好	良 好

圃場内でのタッピング調整

―各調整部分の相互関係を知り応用する―

- ●差動なしにする。(さらに以下の調整をすることにより微妙な調整が出来ます。)
 - ●タイヤを下げる。やや薄く切れる。
 - 2さらに薄く切りたい。さらにタイヤを下げる。
 - ❸タイヤを下げ続けるとフィーラホイール上下調整ボルトが下げ止板に当たる。
 - ⁴さらにタイヤを下げるとフィーラホイールが浮かされる。このため適正なタッピングが 出来なくなる。
 - ⑤タイヤを上げて②と③の中間くらいの位置に戻す。フィーラホイール上下調整ボルトと下げ止板のすきまが2~3ミリ位になるように直す。
 - ⑥ナイフとフィーラホイールのすきまを確認し3ミリ以上なら3ミリ位に直す。
 - ⑦タッピングをしてみる。
 - ❸もっと薄く切りたい場合は、圧縮バネをやや強くする。

B (小さいビート、大きいビートどちらもAよりは厚く切りたい場合)

- ●方法 1 Aの①~③の中の⑥の調整ですきまを3ミリ以上に広げる。
- ●方法2 差動目盛を2~2.5位にする。(さらに以下の調整をすることにより微妙な調整が出来ます。)
 - ●タイヤを下げる。やや薄く切れる。
 - ②さらに薄く切りたい。さらにタイヤを下げる。
 - ❸タイヤを下げ続けるとフィーラホイール上下調整ボルトが下げ止板に当たる。
 - ⁴さらにタイヤを下げるとフィーラホイールが浮かされる。このため適正なタッピングが 出来なくなる。
 - **5**タイヤを上げて**2**と**3**の中間くらいの位置に戻す。フィーラホイール上下調整ボルトと下げ止板のすきまが2~3ミリ位になるように直す。
 - **6**ナイフとフィーラホイールのすきまを確認し3ミリに直す。
 - **7**タッピングをしてみる。
 - ❸もっと薄く切りたい場合は、圧縮バネをやや強くする。

○ 「小さいビート、大きいビートどちらも厚く切りたい場合」

- ●方法 1 ナイフとフィーラホイールのすきまを広げる。
- ●方法2 ナイフのすきまを広げる+差動調整をする。

▶□(小さいビートは薄く、大きいビートは厚く切りたい場合)

- ●差動目盛を3~4位にする。(さらに以下の調整をすることにより微妙な調整が出来ます。)
 - ●タイヤを下げる。やや薄く切れる。
 - ②さらに薄く切りたい。さらにタイヤを下げる。
 - ❸タイヤを下げ続けるとフィーラホイール上下調整ボルトが下げ止板に当たる。
 - ◆ さらにタイヤを下げるとフィーラホイールが浮かされる。このため適正なタッピングが 出来なくなる。
 - ⑤タイヤを上げて②と③の中間くらいの位置に戻す。フィーラホイール上下調整ボルトと下げ止板のすきまが2~3ミリ位になるように直す。
 - 6ナイフとフィーラホイールのすきまを確認し3ミリ以上なら3ミリ位に直す。
 - **7**タッピングをしてみる。
 - ❸もっと薄く切りたい場合は、圧縮バネをやや強くする。

E (小さいビートは薄く、大きいビートはDより厚く切りたい場合

- ●差動目盛を5~6位にする。(さらに以下の調整をすることにより微妙な調整が出来ます。)
 - ●タイヤを下げる。やや薄く切れる。
 - ②さらに薄く切りたい。さらにタイヤを下げる。
 - ❸タイヤを下げ続けるとフィーラホイール上下調整ボルトが下げ止板に当たる。
 - ⁴さらにタイヤを下げるとフィーラホイールが浮かされる。このため適正なタッピングが 出来なくなる。
 - **⑤**タイヤを上げて**②**と**③**の中間くらいの位置に戻す。フィーラホイール上下調整ボルトと下げ止板のすきまが2~3ミリ位になるように直す。
 - **6**ナイフとフィーラホイールのすきまを確認し3ミリ以上なら3ミリ位に直す。
 - **7**タッピングをしてみる。
 - ❸もっと薄く切りたい場合は、圧縮バネをやや強くする。

F (トウが立ったビートの多い所で 小さいビート、大きいビートどちらも厚く切りたい場合

●差動目盛を3~7位にする。 ナイフとフィーラホイールのすきまを広げる。

タッピング不具合の原因

タッピング作業は本機の調整以外にも、ビートの大小、圃場状態や走行の仕方 あるいはトラクタの機種や操作などにも影響され、場合によっては良好なタッ ピングが出来ないことがあります。

[圃場状態や走行の仕方が原因の不具合]

- ●圃場に傾斜やうねりがある
- ●傾斜地等では、ずれが大きくなるとコールタでビートを切ることがあります
- ●柔軟な圃場でトラクタがスリップする場合
- ●防除畦や畦間の深さに大きな差がある
- タッパーと畦のセンターがずれた場合 (センターにずれがあると枯れ葉がナイフにたまりタッピング不良をおこすことがあります)

[トラクタによる原因による不具合]

- ●本機に貼られた表で指定された本機取付ギヤ以外のものや指定トラクタ以外のもので使用したとき
- ●本機取付ギヤがラベルの表と異なるものがついているのにそのまま使用したとき
- ●指定トラクタの変速位置が違うとき
- ●指定トラクタでも改造やオプションによる仕様の変更がある場合
- ●PTOあるいはグランドPTOの変速位置が違っているとき
- ●PTOあるいはグランドPTOを入れ忘れたとき

その他の不具合と原因

[ビートが斜めに切れている]

斜め切りの原因	本機をトラクタにマッ	ッチングしたとき	の前傾・後傾姿勢のの	ときが考えられます	j
機体の状態	正	常前	傾	後	傾
切り口の状態	平		前さがり	前あか	うり
切 断 面状態 面	ナイフ	7			
		機体 ラホ· 〇切断	プリンクを縮めると が前傾になりフィー イールが上がる 面は前下がりで切り になることがある	○トップリンク 機体が後傾り ーラホイール ○切断面は前上 過ぎになるこ	になりフィ が下がる がりで切り
調整のしかた		トップ	プリンクを伸ばす	トップリンク	を縮める

[ビートが倒れてしまう]

点検箇所	現	象	原 因	処置
			ナイフの切れ止み	研磨
	切扣	つ味	ナイフの摩耗	研磨か交換
			ナイフの刃コボレ、カケ、サビ	研磨か交換
ナーイーフ	ガ	タ	ナイフ取付のゆるみ	締め付け
	変	形	ナイフのそり(曲り)	修正か交換
	付	着	ナイフの根元に茎葉付着 (たまり)	除去 (ナイフが切れないときに 付着が多い)、ナイフの研磨
	摩	耗	歯形部の摩耗	極端な摩耗のときは交換
フィーラ	ガ	タ	フィーラホイール締付ボルトの ゆるみ	外周歯形部の凹凸のないように 注意して締付
ホイール			キーと軸のガタ	交換又はセットボルトの締付
	調	整	フィーラホイールに障害物(石) のはさまり	除去
クリーナー	変	形	クリーナー板の変形とフィーラ ホイールの接触	修正、調整
			クリーナー損傷	修正、交換
作物、圃場			地上露出高が高く、地下茎が小 さい	作業速度を遅くする
			移植時の斜め植え	移植機の調整

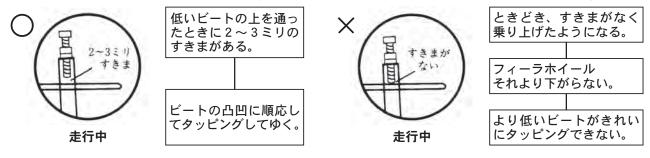
上記のほかに、圃場の土がやわらかい為、根部保持力が弱くて倒れる場合があります。

フィーラホイールの調整

[フィーラホイール上下調節ボルト]

フィーラホイールをやや上げたり、やや下げたりするものです。タイヤ上下の限度を超えた場合に補助的な微調整ができます。ただし通常はあまり頻繁にこの調整はしないで下さい。 他の調整部分とのバランスが崩れ本機の性能に影響する場合があります。

- ◆ 畦が深くタイヤを下げきってもビートを切りすぎる時。 上下調整ボルトを押し込む ─ フィーラホイールがやや上がる。やや薄く切れる。 (タイヤをやや下げたのと同じ効果が得られる。)
- ◆ 畦が浅くフィーラホイールが浮く時。 上下調整ボルトを逆に戻す ─ フィーラホイールがやや下がる。やや厚く切れる。 (タイヤをやや上げたのと同じ効果が得られる。)

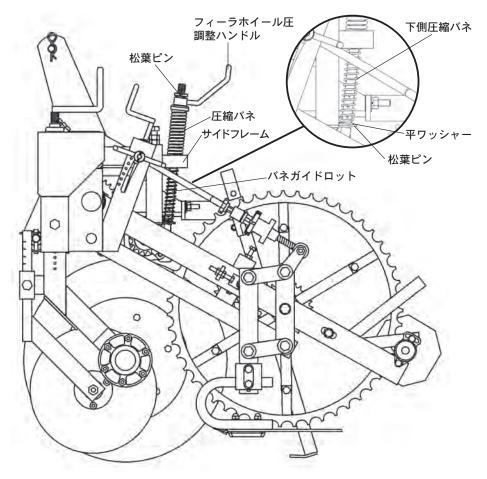


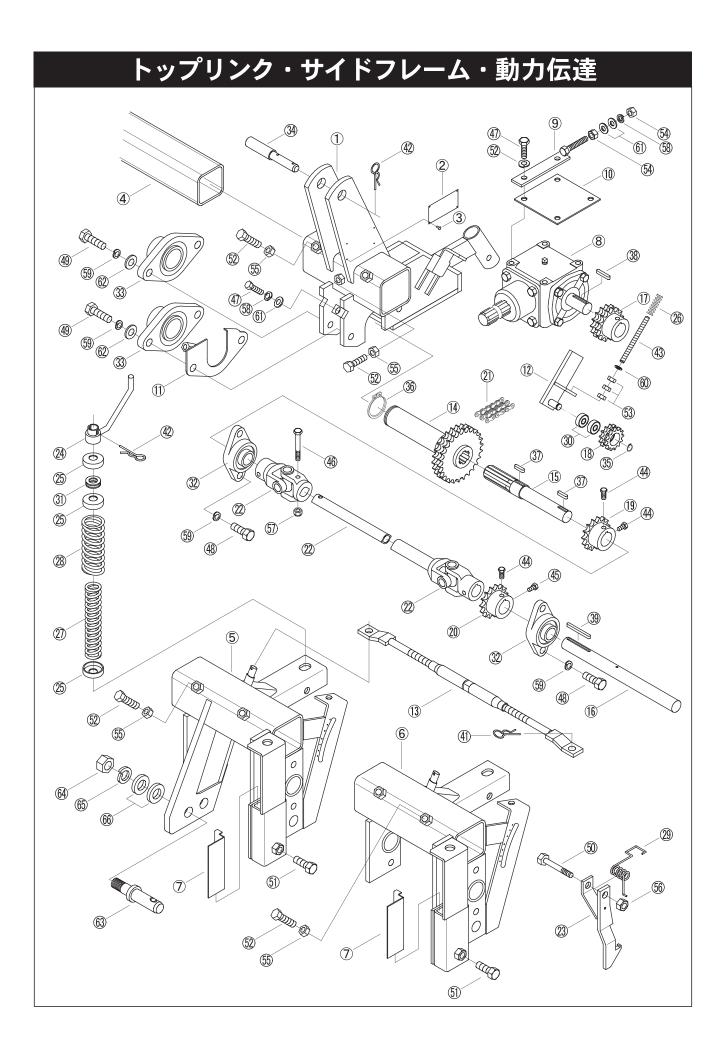
[圧縮バネの調整(フィーラホイール圧力調整)]

バネ強度調整ハンドルと バネガイドロットに挿す松 葉ピンの位置を変えて行い ます。

松葉ピンを抜きハンドルを回し調整します。バネガイドロットには止穴が5つあり、松葉ピンを下へ挿くなり、松葉ピンを下へ強くなりできなくなります。なと、フィーラホイールがあまり強すぎると、フィーラホイールが不安になります。なります。なります。

この場合、下側バネの松 葉ピンを上へ挿すほど下側 圧縮バネの圧縮力が増し、 バタつきをある程度抑えら れます。





トップリンク・サイドフレーム・動力伝達

No.	部 品 名	規格
1	トップリンクマスト	
2	社 名 板	
3	打 込 鋲	#2×4.8
4	ツ ー ル バ ー	L1080
4	ツ ー ル バ ー	L2400
5	サイドフレーム	内側(左・右)
6	サイドフレーム	外側(左・右)
7	タイヤフレームスペーサ	
8	ベベルボックス	HA25
9	ベベルボックステンション	
10	ベベルボックススペーサ	
11	中間シャフトベアリングテンション	
12	W チェンオートテンションブラケット	
13	畦 幅 調 整 ロッド	
14	中間スプライン穴パイプ	
15	スプライン中間シャフト	
16	中間シャフト 外側	
17	スプロケット 2列	50-2B キー溝付 φ 30
18	テンションスプロケット	50-2×12T
19	スプロケット	50B15T キー溝付 φ 35
20	スプロケット	50B15T キー溝付 φ 30
21	ローラーチェン 1列	#50
21	ローラーチェン 2列	#50-2
22	ドライブシャフト	AS050-KH-WN307-N
23	持上げフック	
24	フィーラホイール圧調整ハンドル	
25	キャップ	20.5×48
26	圧 縮 ス プ リ ン グ	A-1025
27	圧 縮 ス プ リ ン グ	A-1026
28	圧 縮 ス プ リ ン グ	A-1027
29	ねじりコイルバネ	D-1013
30	ボールベアリング	6202DDU
31	スラストベアリング	51104
32	ピローブロック	UCFL206
33	ピローブロック	UCFL210
34	トップリンクピン	φ19×150
35	スナップリング	S15
36	スナップリング	S50
37	+ -	7×7×30L 両丸
38	+ –	7×7×50L 両丸
	+ -	7×7×70L 両丸
39		
39 41	松葉ピン	φ3. 2×9×58
	松 葉 ピ ン 松 葉 ピ ン	ϕ 3. 2×9×58 ϕ 3. 5×11×78
41	松葉ピン	

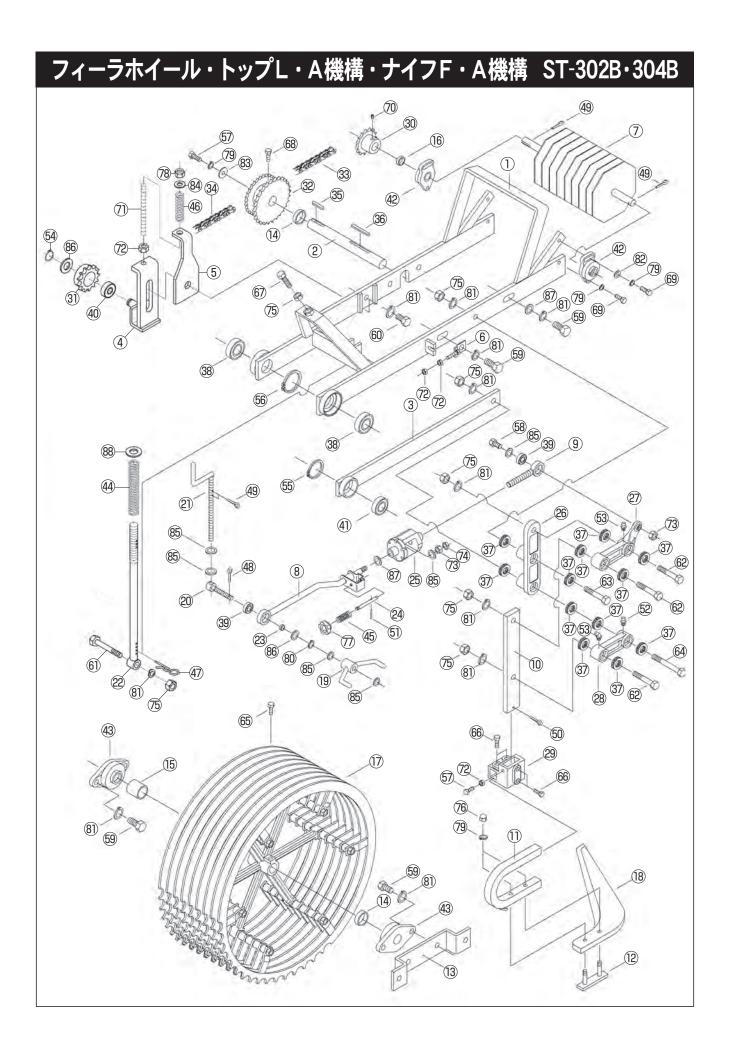
No.		部	品	名				規	格
45	小	型六	角	ボ	ル	7	M10	×20	P1. 25
46	六	角	ボ	ル		 	M10	×70	半ネジ
47	六	角	ボ	ル		 	M12	×40	
48	六	角	ボ	ル		 	M16	×30	
49	六	角	ボ	ル		-	M16	×40	
50	六	角	ボ	ル		 	M16	×90	半ネジ
51	六	角	ボ	ル		\	M16	×30	10. 9T
52	六	角	ボ	ル		\	M16	×45	10. 9T
53	六	角	ナ	ッ		-	M10		
54	六	角	ナ	ッ		\	M12		
55	六	角	ナ	ッ		\	M16	3種	
56	U	ナ		ツ		 	M16	3種	
57	ナ	イロ	ン	ナ	ツ	 	M10		
58	ば	ね		座		金	M12		
59	ば	ね		座		金	M16		
60	平		座			金	M10		
61	平		座			金	M12		
62	平		座			金	M16		
63	П	ワー	ノン	・ ク	ピ	ン		レンク	22×55
63	П		リン		ピ	ン	大り	レンク	24×58
64	六	角	ナ	ッ		-	M22	P1. 5	(小リンク)
64	六	角	ナ	ッ		-	M24	P2. 0	(大リンク)
65	ば	ね		座		金	M22		リンク)
65	ば	ね		座		金	M24		リンク)
66	平		座			金	M24		クのみ使用)
			ST	-304E	3 M	み使	用		
				30 IL		- 12			

タイヤ・コールタ・スタンド・ドライブシャフト 16) 24 15 15 19 17 15

タイヤ・コールタ・スタンド・ドライブシャフト

No.	部 品 名	規格
1	タイヤフレーム	左·右
2	タ イ ヤ	4. 50-12 6PR
3	チューブ	4. 50-12
4	ホ イ ー ル	4. 50-12
5	4 6 H C ハ ブ	35mm
6	タイヤ上下ハンドル	
7	ローリングコールタ	14インチ
8	コールタアーム	
9	コールタシャフト	φ 20
10	コールタハブ	#4170
11	コールタフレーム	左・右
12	ス タ ン ド	
13	スタンドピン	
14	パイプカラー	SGP20A ×5.5L
15	スペーサー	t1.0×20.5×31.7
16	キャップ	ϕ 20. 5×48
17	ボールベアリング	6004DU
18	スラストベアリング	51104
19	スナップリング	H42
20	ロ - ル ピ ン 割 ピ ン	φ5×30
21		φ4×35
22	松葉ピン	ϕ 3. 2×9×58
23	グ リ ス ニ ッ プ ル	M6-S
24	六 角 ボ ル ト	M10×25
25	六 角 ボ ル ト	M12×30
26	六 角 ボ ル ト	M16×30 10.9T
27	六 角 ナット	M10
28	六 角 ナット	M12
29	六 角 ナット	M16
30	ば ね 座 金	M10
31	ば ね 座 金	M12
32	ば ね 座 金	M16
33	特 平 座 金	10×18×1.6
34	平 座 金	21×37×3
35	ドライブシャフトクラッチ付	AS050-N450-26T
35	ドライブシャフトクラッチ付	AS050-N450-35T
36	ドライブシャフト安全カバー(内)	
37	ドライブシャフト安全カバー(外)	
38	ドライブシャフト安全カバーチェン	
39		
	i	

	СТ	304B のみ	/ - /-	



フィーラホイール・トップL・A機構・ナイフF・A機構 ST-302B・304B

No.	部品名	規 格
1	フィーラホイールフレーム	
2	フィーラホイールシャフト	φ30×292
3	ナイフロット	
4	テンションブラケット	
5	フィーラホイールオートテンション	
6	テンション	
7	ク リ ー ナ ー	9列
8	ナイフ上下調整ネジ(前)	
9	ナイフ上下調整ネジ(後)	
10	トップL・Aピーム	
11	ナイフ取付U字金具	
12	ナイフ取付ペアボルト	M10×45 10.9T
13	ベアリングベース	
14	フィーラホイールシャフトリング	32 A × 12 L
15	フィーラホイールシャフトリング	32 A × 43 L
16	クリーナースプロケットリング	20 A × 8 L
17	フィーラホイール ASSY	
18	タッパーナイフ	左・右
19	作動固定ハンドル	
20	ナイフ固定上下調節ロット締付ピン	
21	作動ハンドル	
22	バネガイドロット	
23	パイプカラー	10A × 4. 7L
24	ストッパーピン	
25	ナ イ フ F・ A 部	
26	トップL・Aビーム取付ブラケット	左・右
27	ロッカーアーム	#4118
28	揺 動 アーム	#4119
29	U字金具取付ブロック	#4116
30	スプロケット	40B15T φ20
31	スプロケット	50B13T B/g 合せ
32	合わせスプロケット	50B28T, 40A30T
33	ローラーチェン	#40×77L
34	ローラーチェン	#50×98L
35	+ -	7×7×45L 両角
36	+ -	7×7×75L 両角
37	スラストベアリング	51103
38	ボールベアリング	6008DDU
39	ボールベアリング	6201DDU
40	ボールベアリング	6202DDU
41	ボールベアリング	6205DDU
42	ピローブロック	UCFA204
43	ピローブロック	UCFL206
44	圧縮スプリング	A-1009
45	圧縮スプリング	A-1018

No.		音	IS .	品	- 5	名		規	格	
46	圧	縮	ス	プ	IJ	ン	グ	A-1025		
47	松		葉		ピ		ン	φ3.5×11	×78	
48	割		Ŋ		Ľ		ン	φ3×20		
49	割		IJ		Ľ		ン	φ4×25		
50	割		IJ		Ľ		ン	φ6×30		
51	П	-		ルピ		ン	φ3×30			
52	グ	IJ	ス	Ξ	ッ	プ	ル	M6-S		
53	グ	IJ	ス	=	ッ	プ	ル	M6-L (45°)	
54	ス	ナ	ッ	プ	IJ	ン	グ	S-15		
55	ス	ナ	ッ	プ	IJ	ン	グ	S-25		
56	ス	ナ	ッ	プ	IJ	ン	グ	S-40		
57	六	_	ħ	ボ		V	1	M10×25		
58	六			ボ			1	M12×40		
59	六	角		ボ		L	1	M16×30		
60	六	角		ボ	_	L	+	M16×35		
61	六	角		ボ		V	1	M16×60	半ネシ	
62	六	角		ボ	_	ı	+	M16×70	半ネシ	
63	六	角		ボ		L	1	M16×85	半ネシ	
64	六	角		ボ		L	+	M16×120	半ネシ	
65	六六	角		ボ	_	L	1	M10×120	10. 9	
	-			ボ	_		_			
66	六	角角			ルル		1	M12×25	10. 9	
67	六	-	٥.,	ボ	-		1	M16×65	10. 9	
68	小	型	六	角	ボ	ル	+	M10×25	P1. 25	
69	小	型	六	角	ボ	ル	1	M10×25	P1.	
70	ホ		П	_	セ	ッ	۲	M10×15		
71	寸	切り				1	M10×1501	-		
72	六	角		ナ			٢	M10		
73	六	角		ナ		ソ	٢	M12		
74	六	角		ナ	- 1	ソ	1	M12 3₹	重	
75	六	£	đ	ナ	-	ソ	1	M16		
76	袋		ナ		ッ		٢	M10		
77	1	7	7	ナ		ソ	1	M8 KG-N2	X.	
78	ナ	1		ン	ナ	ッ	1	M10		
79	ば		ね		座		金	M10		
80	ば		ね		座		金	M12		
81	ば	ね		座		金	M16			
82	特	平		座		金	M10 10×18×1.6			
83	特	平		座		金	M10 11	×35×2.		
84	平			座			金	M10		
85	平			座			金	M12		
86	平			座			金	M14		
87	平			座			金	M16		
88	平			座			金	M20		

ベベルボックスのオイル交換について

- (1),オイル交換時期は、オイルの色、又は量で判別して下さい。 交換時の量 約600ml
- (2).オイルの色、量について
 - 色が白く濁っている 水分が入っています。
 (中のギヤが錆びます。)
 - ②. 色が黒く濁っている 鉄粉が発生しています。 (中のギヤが磨耗している可能性があります。)
 - ③. 量が減っている オイルが劣化しています。

使用オイル: 出光興産 アポロイルギヤー HE-90

▲ 注 意

本機の改造、指定以外のアタッチメントの取付などは決してしないで下さい。 また、部品は部品説明書に記載した規格で当社純正部品を使用して下さい。 規格が異なる部品や中古部品及び他社の部品は使用しないで下さい。 事故やケガ、本機の破損や故障をまねくおそれがあります。 そのような場合は当社で責任は負いかねます。

ST-302B 仕様

畦 巾 60~69cm

畦 数 2

作業速度 5~7.5km/h

作業能率 50~75a/h 所用馬力 28kw (38PS) は

ST-302B

- \bigcirc PTO仕様のビートタッパーはグランドPTOで使用しないで下さい。
- ◎グランドPTO仕様のビートタッパーはPTOで使用しないで下さい。
- ◎トラクタを変えるときはビートタッパー本体のギヤ(21頁団)の変更が必要です。

ST-304B 仕様

畦 巾 60·66cm

胜数4

作業速度 5~7.5km/h 作業能率 100~150a/h

所用馬力 33kw (45PS)

丛洼

ST-304B

- ◎PTO仕様のビートタッパーはグランドPTOで使用しないで下さい。 ◎グランドPTO仕様のビートタッパーはPTOで使用しないで下さい。
- ◎トラクタを変えるときはビートタッパー本体のギヤ(21頁面)の変更が必要です。